

テーマ 「言語活動の充実に向けて ～鑑賞の実践～」

1. 主題設定の理由

言語活動と美術との関わりを考えると、私がまず最初に思い浮かべるのは言葉を使つての活動が中心になる鑑賞である。鑑賞という行為は、普段の生活の中でそれと気づくことはなく何気なく行っているかもしれない。それに鑑賞活動を通して得られるものやメリットといったものをまず先に考えてしまうが特に目に見えて成果が現れるものではなくポディブローのように後でじわじわと効いてくるものだという風に考える。

鑑賞の時間に生徒からなげかけられる質問で「鑑賞って何見るん?」というこれから見るものへの期待のような言葉を聞くにつけ、何をみせるかどんな風に考えさせるかということに頭を悩ます。

作者がどのような方法や手段、素材でこの作品をつくったのか、どんな気持ちでつくったんだっただろうかということをも自分なりに考えるための「鑑賞」する力を育てたい。その過程でその作品の不思議な空間やモノの組み合わせについて考えたり等、作品と対話する力や作品に抵抗感や先入観なく自然に接することができる素養ができればよい。情報過多と言われる現代に生きる生徒たちが自らの目で見て絵と向き合う力を膨らませたいと考える。授業では、生徒が身近な風景にもミステリアスな部分が潜む作品を鑑賞することで作者が語りかけてくるメッセージを読み取り、作者の意図を自分なりに解釈してみる。画面の中にあるものひとつひとつにこだわって、その形や色、大きさなど何故にその位置にその大きさであるのかなど丁寧にみていく。そして自分がどのように感じとって行ったかをまとめ、その絵の中に自分なりのストーリーを作る。自分なりに絵を解釈したり作者の人となりを考えることにより見方の幅が少しずつ広がればと考えこの題材を設定した。

2. 本年度の取り組み（1年次）

美術科では、研究主題の「言語活動の充実に向けて」を「表現」と「鑑賞」の視点から考えていくことにして次のとおりに定義した。

- ①美術の授業で鑑賞に親しむ事で、美を感じ取り、美術を愛好する心情や豊かな心の基礎となる美しいと感じる心を育む。このことから、自分の思いや、考えを豊かに表現し伝える。
- ②普段の生活の中で絵を描いたりものをつくったりして美術に親しむことや、色と形でわかりやすくスケッチや図や立体に表して伝えることで、共通に理解し合う能力、新しいもの・楽しいものなどを豊かに創造・発想する。それを形に表し、学校で、あるいは社会の一員として表現する造形表現の基礎的能力を身につけ発信する。
- ③国際社会において鑑賞を中心として、日本の伝統美や継承の美など自国の文化を理解する。また、海外諸国の美術作品や文化遺産としての芸術等を鑑賞し、美の歴史や文化、暮らしや生き方と美術のかかわりの理解楽しみ、味わい、よき特質などを感じ取り、理解し、追究する基礎的な能力を培う。

美術科における言語活動は、表現領域では制作の最初の段階に発想したり自分の考えをまとめたり、制作終了時の感想や振り返りなど、これまでも行われてきた活動である。また、鑑賞領域における言語活動の活用も多いに期待されているところである。その中で「美」を探究する意識を高めるために考えたり、発想したことを文章化したり、感じたり考えたことを客観的に一度言葉にしたものをもとに話し合いをもつことがポイントになる。また話し合いの中で自分の考えを修正しながら制作に生かせるようになれば更に良い。そのためには協同学習を授業に、より多く取り入れてお互いの考えの中で刺激を受けたり、触発されたりしながらより良い「美」を求めていくという形になればと考える。

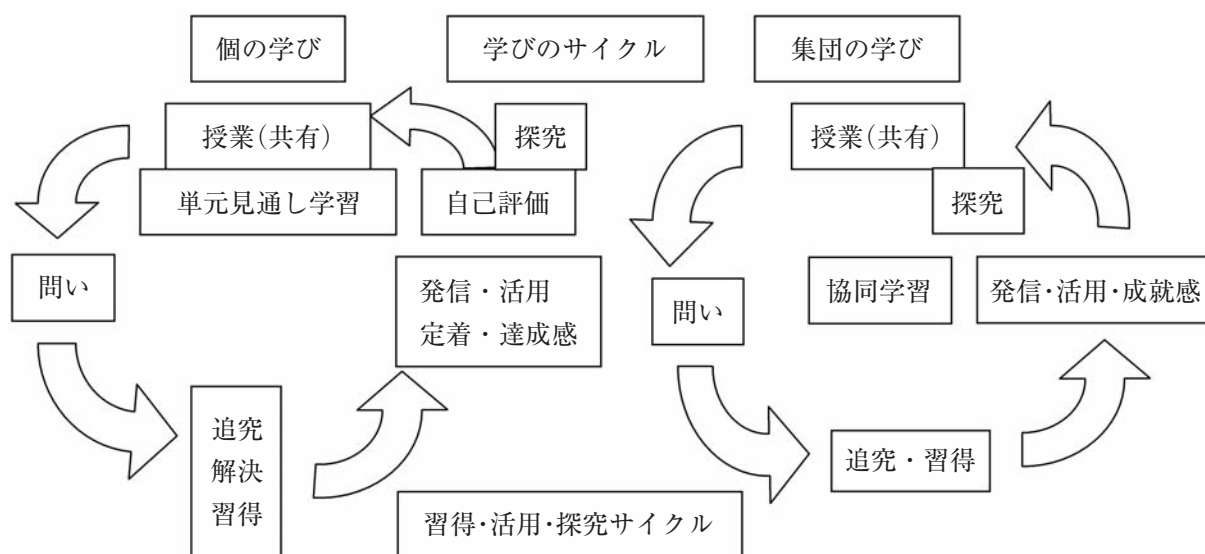
また学び合いの場において効果的にICT機器を活用し、より視覚的に奇麗で迫力のある映像を見ることにより、印象として心に残るような授業の中での使い方についても試行錯誤しながらではあるがすすめている。

また昨年に引き続き「習得、活用、探究」については以下のように考える。

習得・・・絵画、立体、デザイン、工芸、鑑賞などの基礎的な知識や技術技法を身に付けて使う。また鑑賞により課題を見出し解決するために必要な知識・技能のみならず、それらを生かすための判断力や洞察力なども必要である。

活用・・・習得で身に付けたことを生かす。そして活動や表現を通じて、更に深めていく。他者との相互作用や、表現意図の意見交換なども含まれる。また、鑑賞授業の中から得る情報の読み取りの相互交流なども当てはまる。

探究・・・新たな発想や感覚を表現し、よりきめの細かい作品作りへの反映やその行為そのもの。具体的には、意欲的に取り組むために、さまざまな角度から検討検証を重ねる機会をもち、得られた内容の実感とその共有や、自分なりの課題をしっかりと感じ取らせて課題解決のための方法を考え、また工夫をすることが大切である。



3. 成果と課題

今回の鑑賞は、昨年度別の学年で作ったものを少しアプローチを変えて行ったものである。学年をひとつ下げて2年生で行った。イメージするという活動の中心となる部分で少し難しい生徒もあったが本校が以前より取り組んでいる協同学習という形態をとることによりお互いが教え合い学び合うという学習スタイルに助けられての鑑賞であった。本来鑑賞は最終的に見る者がどのように作品から感じ取り、感動したり、共感したりまた励まされたりするものか。またその感じたことをその後の生活に生かしたり豊かな情操を育むための個人としての活動が中心である。その個人の活動を友達とお互いにサポートし合う。実際今回の鑑賞のように同じ班のまわりの友達とともに短いストーリーを一緒になって考えるということに戸惑いを感じる生徒は少ない。机間巡視でもどんな風にかきすめたらいいかという質問もあった。しかしこちらの心配とは裏腹に協同学習というシステムのおかげで班員がお互いに智慧をしぼってアイデアを出



し合う。かなり無理矢理な指導であったにも拘らず生徒たちは満足過ぎるくらいの結果を出してくれた。出来上がってきたストーリーは面白いもの、練られたものも多く内容にそれぞれの班の工夫が感じられた。鑑賞を通した個人の言語活動は、協同学習のスタイルをとることにより、いっそう深められたのではないかと考える。

今後ストーリーを考える際の細かい手順のようなものがあれば苦手な生徒にとってももっと考えやすかったのではないか。また前回と重なるが班での学びについてもっと目に見える形での発表の仕方や、自分の考えた内容の整理の仕方など改善と工夫が必要であると思う。

1. 題材 鑑賞～協同学習により現代美術を楽しむ2～

2. 題材について

鑑賞は、よい鑑賞者をつくるだけでなくその中からよい制作者を作る可能性を秘めた単元である。様々な作品に触れてその作品の特徴や作者の意図、さらには自分なりの解釈ができればもっと鑑賞することが楽しくなる。いろいろな手法や作品に出会い、触れ合う過程で、自分なりの鑑賞方法が見つかったりするものである。鑑賞は、観察力や理解力を養う課題としてだけでなく情操や感性に関わる活動として、幅広く集中力や創造力などを育てることに有効な課題であり、日々の生活にも生きる造形能力や感覚を育てられると考える。鑑賞は観ることそのものを純粹に楽しめる教材で子ども達の観る喜びを引き出すことが最大の課題である。そんな中、現在現役で活躍中の画家「横尾忠則のY字路シリーズ」を取り上げこの作品を手がかりに鑑賞をすすめる。また画家のエピソードやどのように制作したのかを知り、画家のもつパワー、作品制作に対する姿勢を感じ、様々な事を多角的に考える力を養う。生徒は、2年生でともすれば中だるみになりがちであるが少しずつ難しい課題もこなしてきている。またとかく生徒にとって面倒な事を要求する課題を出す事もままあるが、頑張ってみようという意欲が感じられる学年である。そんな時期にY字路という作品が持つ意味や楽しさをちょっと一息ついて見るにより自分の状況を客観的に見るきっかけにもならないかとの思いから本題材を設定した。今回も協同学習という手法を通じての鑑賞活動は、緊張感ある表現行為とはまたひと味違い、友人との楽しい話し合いの中で作品鑑賞を行い作品の表現の多様性を知り、発想や工夫につながるような探究をする。このようなアプローチから協同的に学ぶことにより気づきや、つまづきを繰り返しながらも前向きに自己を表現していく方法を見出せるし、「言語活動」ということに関わって追究し周りとの関わりの中で発信する力が育つのではないかと考えた。また独自の目でしっかりと観て考えることで、言語力を高めることをねらいとし、学び合いの場はひとつの社会としてお互いを刺激し合える良い場として位置づける。

この授業では、協同学習の手法を取り入れ鑑賞本来の楽しさ、面白さ、作者の意図を深く突っ込んで考える。このことの難しさや友達とのやり取りの中で刺激し合い達成感を得ながら、みんなと協力してつながり合う。他の人の発言を聞くことにより多様な、読み取りに気づくなど関連をもちながら作品を鑑賞していく中で喜びや共感を得られたらと願う。

3. 学習目標と評価規準

<p>学習目標 評価規準</p>	<p>1. 現代の美術作品を見て感想をまとめ、それを述べ合うことができ、また作品に対する見方を広げ、鑑賞をより身近なものとする。 2. 作者の心情や制作意図、主題性を理解する。 3. 協同学習により他人の考えを大事にする。</p>
<p>美術への関心・意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品や現代の作家に親しむことができる。 ・鑑賞に興味・関心をもち楽しんで活動できる。 ・進んで活動に取り組もうとしている。
<p>鑑賞の能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴、工夫点などを感じたり効果的に発表できる。 ・友達の解釈を大切にし共感的に理解できる。 ・理解したことをもとに主題にせまることができる。 ・感じ取った事を豊かに読み取り表現活動に生かす。

4. 学習計画（単元構成表）2時間（◎は本時で、2時間目）

学習過程	学習の中心	言語活動の視点	観点
鑑賞（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> 作者についてのエピソードや制作に対する姿勢を見る ポイントになる部分のメモをとる 	<ul style="list-style-type: none"> 得た情報を整理し説明的に記録させる 	関鑑
◎	<ul style="list-style-type: none"> 「Y字路」のある風景でふたつに分かれた道をテーマに前時のプチストーリーをもとにスケッチさせる 話し合いと文章表現による鑑賞活動 	<ul style="list-style-type: none"> 記録した情報をもとに主体的にまとめる 個人のキーワードをもとに班内で意見交換させる 	関鑑

5. 本時の目標

- 横尾忠則の「Y字路」作品を見て感想を述べ合うことができ、また作品に対する見方を広げ、鑑賞をより身近なものとする。
- 作者の心情や制作意図を想像し主題性を理解する。
- 協同学習により他人の考えを大事にする。

6. 本時の展開

学習活動	教師の指導	備考
本時の内容について知る	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みについての説明、準備をする 学習課題を知り、本時の学習活動に対する意欲を高める説明（協同学習をすること）などの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの配布
個人による作品の鑑賞（活用）	<ul style="list-style-type: none"> 横尾忠則のY字路作品を見る 鑑賞のポイントを知らせる 形、色、構図、空間など自分なりに感じたことをまとめる ワークシートにそれぞれの作品について思ったことを記入し、プチストーリーをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大した作例
協同による話し合いと感想の発表（活用）活動	<ul style="list-style-type: none"> 協同学習の班4人で座らせる Y字路作品について自分なりの考えや感想を班の中で発表し話し合う 班員のキーワードをまとめてスケッチにしてそれぞれの班で代表者が2分以内で発表する 班内の協力を促す 今日の学習で気づいたことや、考えたことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> スケッチ用画用紙と画材の配布
発表と全体のまとめ（習得）		

準備

生徒・・・資料集、筆記用具

教師・・・鑑賞の作例、ワークシート、画用紙、発表用マイク

7. 結果と考察

昨年度の鑑賞は協同学習メインの取り組みで1時間に詰め込み過ぎの欲張った授業であったという反省に基づき今回は、2時間という活動時間の幅をとりたっぷりとは言えないまでも少し余裕のある授業展開を行った。しかし、学年も2年に変わり今回のメインは言語活動と、じっくり考えることが中心になっているため時間的にはもう1時間くらいあった方がよりじっくりと鑑賞できたのではないかと考える。また3年生から2年生と学年を変えてやってみて1年でも可能なアプローチの方法を考えればできる題材であ

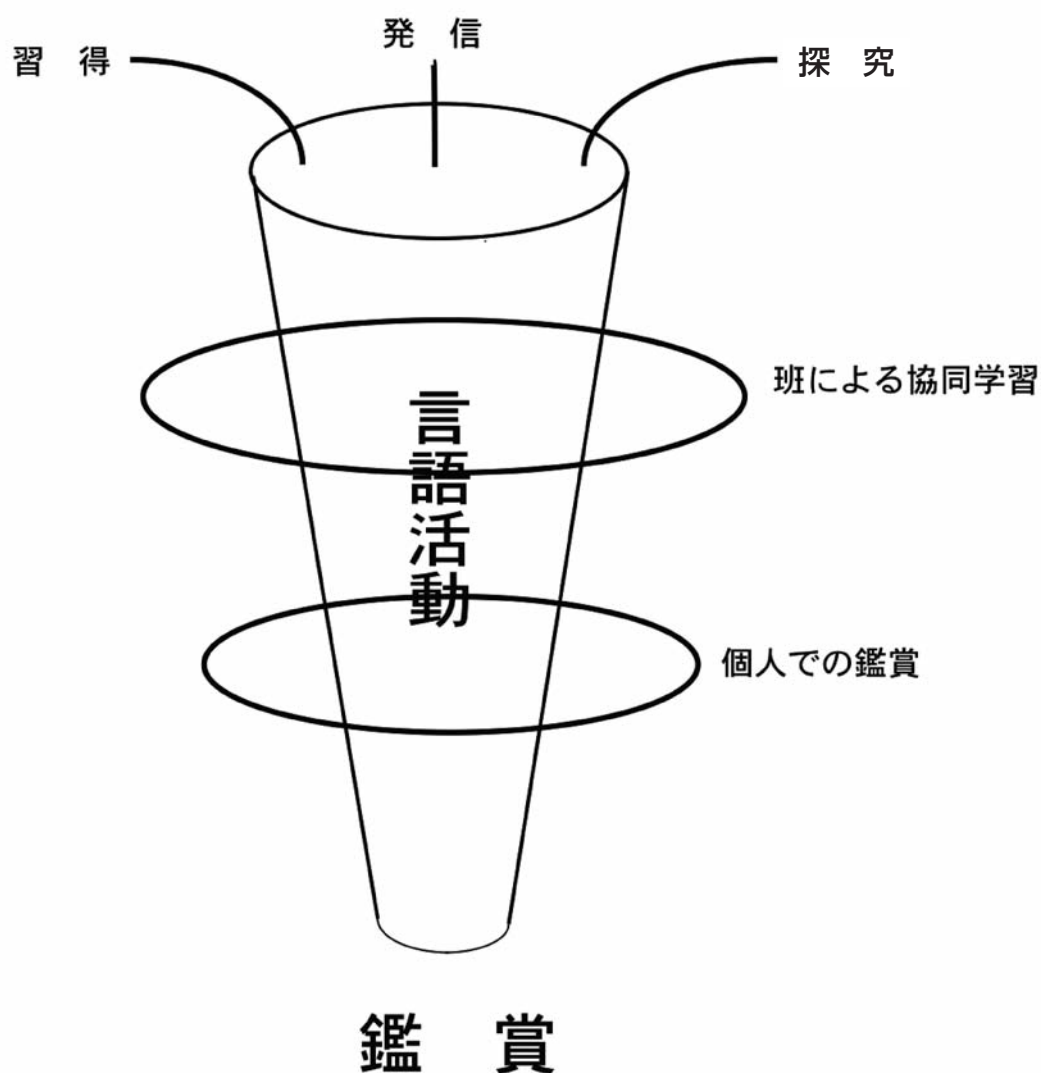
ると考える。

I C T 機器の活用も何か見せ方の工夫やプロジェクター以外の機器を使っての鑑賞方法、P C 教室を使っての鑑賞なども考えていきたい。

更に今回の鑑賞で学んだことを今後の表現活動にどう活かしフィードバックしていくかということも視野に入れて考えて行く必要があると感じる。今回の授業では生徒の立場から考えるとこれまでやってきた授業とあまり関係のないところでの内容であったので、もっと関連がわかりやすく連続性があるような内容であればもっと自然に感じる活動が出来たのではないかと思う。

一過性のその場限りのものではなく表現活動と表裏一体となるような密着したものが理想だと思う。表現と鑑賞が一体となる事でその後の人生に影響を少なからず与えるような感動が得られる活動をめざしたい。

最後に今回も鑑賞をとおしてこちらの予想を超えて生徒同士のコミュニケーションやお互いに助け合いながらの活動の様子が多く見られ、微笑ましくもあった。また個人の言語活動も深められたと考える。今後も協同学習の活動は、単なる雑談の場ではなく、けじめのある鑑賞活動の基になるものとする。



美術科 鑑賞ワークシート
Y字路について

横尾忠則 Y字路について個人の感想や気づいたことなど

- ・時間、登場しているもの、背景や画面の中で起きていることや、気になったもの、自分の気持ち、どんな行動をとるか、などその理由も含めて書きましょう。

.....
.....

- ・プチストーリー（自分が主人公の短くも感動の物語を作ろう！）

.....
.....

Y字路作品から連想すること

- ・時間、登場しているもの・背景画面の中で起きていることや気になったものなど

.....
.....

作者（横尾忠則）に関して考えたこと

.....
.....

- ・プチストーリー（班としての独自の物語を作ろう！）

.....
.....
.....

年 組 番 氏名 _____

